



## CASE REPORT

# ゼメックス クラッシャーカテーテル (LBGTS-7420S/タイコドルミア型)の使用経験

新潟大学医歯学総合病院 光学医療診療部  
塩路 和彦先生



### はじめに

総胆管結石の多くが内視鏡的な経乳頭的処置にて治療可能となってきたが、積み上げ結石や巨大結石、胆管の屈曲等、様々な原因で処置困難となることがある。

今回総胆管の屈曲により結石を越えてクラッシャーカテーテルを進めることが困難であった症例に対し、ガイドワイヤー誘導下にゼメックスクラッシャーカテーテル(LBGTS-7420S/タイコドルミア型)を挿入し砕石・截石が可能であった症例を経験したので報告する。

### 症 例

68歳男性。食道癌に対し化学放射線療法が施行され、経過観察目的の腹部CTにて総胆管結石を指摘、截石目的に入院となった。

ERCにて最大径15mmの結石を多数認めた(図1)。EST後他社製クラッシャーカテーテルにて中下部胆管の結石を砕石し除去したが、上部胆管の屈曲と結石によりクラッシャーカテーテルを結石より上流に進めることができずENBDを留置し一旦終了した(図2)。後日ガイドワイヤーを上部胆管の結石より上流に留置し、ガイドワイヤー誘導下にゼメックスクラッシャーカテーテル(LBGTS-7420S/タイコドルミア型)を挿入した(図3)。



図1



図2



図3



結石の上流で展開し、バスケットを回転させながら引くことにより結石の把持・砕石が可能であった(図4、5、6)。バルーン造影にて遺残結石のないことを確認し退院となった。



図4



図5



図6

## コメント

破碎を必要とする総胆管結石の内視鏡治療において、結石を越えてクラッシャーカテーテルを挿入し、しっかりと結石を把持できるかが手技成功のカギとなる。

今回使用したゼメックスクラッシャーカテーテルはガイドワイヤー誘導下に使用可能で、カテーテル外径が2.6mmと細いため、屈曲した胆管や大きな結石を越えて、容易にバスケットを上流に進めることができる。また、手元ハンドルの操作でバスケットを回転させることが可能で、結石の上流でバスケットを開き、回転させながら引くことが結石把持のコツである。

当科ではバスケットの回転により結石を把持しやすく、破碎時に力の伝わりやすいタイコドルミア型を好んで使用している。(図7)

カテーテル外径が細いためガイドワイヤーなしでも比較的胆管挿管が容易で通常のバスケットカテーテルとしても利用でき、術後再建腸管症例で使用する鉗子口径の小さいダブルバルーン内視鏡や上部消化管内視鏡でも使用可能で、さまざまな状況に対応できる有用な碎石具と考えられる。

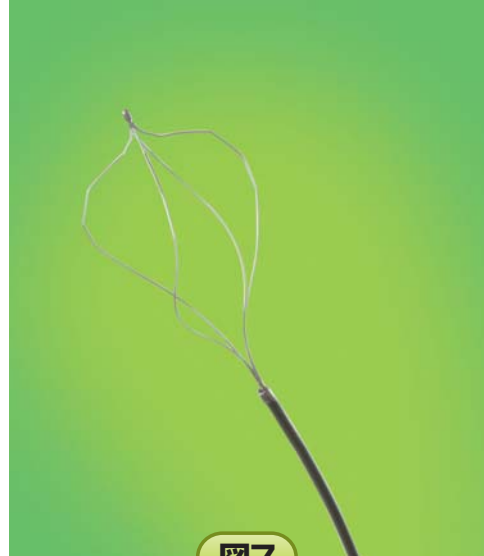


図7

製造販売元

## ゼオンメディカル株式会社

URL:<http://www.zeonmedical.co.jp>

販売代理店